

長浜市病院事業改革プラン(計画期間：平成 29 年度～令和 3 年度)に対する総括評価

1 総括

長浜市病院事業改革プラン（改訂版）は、令和 3 年度をもって計画期間を終了した。

期間中の取組を総括すると、病院機能の強化（急性期病院としての役割、回復期・慢性期機能への対応、在宅療養支援・地域医療連携）、患者サービス向上（保健活動の充実、患者満足度向上、医療安全管理体制の確保）については、目標を達成した項目が多数あるものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、収支の改善には至っていない。今後、経営基盤強化（人材確保、運営の効率化、収入向上と経費削減）に向けた取組を進める必要があると考える。

2 市立長浜病院

特定の診療科や病棟における医師不足のなか、経常損失の削減努力を行ってきたものの、新型コロナウイルス感染症の影響等により本業の医業収支の改善には至っていない。

一方で、施設の長寿命化・利用者満足度向上等を目的とするファシリティマネジメントを重視した本館の大規模改修、予防医学の拠点となるヘルスケア研究センターのリニューアル、消化器疾患に対応する内視鏡センターの開設等、一定の投資を行ってきたことから、施設改修後の充実した病院機能を活かし、地域の基幹的な公立病院として、より高度で良質な医療サービスの提供、地域住民の医療の確保を進めるとともに、経費削減を図り、早期の経営基盤の強化を目指していただきたい。

3 長浜市立湖北病院

新型コロナウイルス感染症の影響による外来患者数の減少や、地域包括ケア病棟をコロナ病棟に転用したことによる入院患者数の減少が要因となり、医業収益が減少している。最終年度はコロナ補助金により経常利益を計上しているが、コロナ終息後を見据えた経営改善への取組を図られたい。病院機能としては、人工透析や訪問看護、訪問診療の件数が増加しており、当地域では、今後も在宅療養支援病院やへき地医療拠点病院として役割が重要となる。地域密着型病院として、更なる在宅療養支援や地域の介護施設等との連携を強化し地域包括ケアの推進に努められたい。また、北部地域の急性期医療も重要であり、医師確保に努められたい。

4 新型コロナウイルス感染症対策

令和 2 年 1 月以降、新型コロナウイルスの感染拡大は、患者数減少等により、両病院の収益に多大な影響を与えた。令和 3 年度は、経常収支は黒字となったものの、本業の医業収支は大幅な赤字となり、経営体質の強化が急がれる。

一方、両病院は地域の公立病院としての責務を果たされ、長浜保健所と緊密に連携し、入院病床の確保や行政検査の受託、ワクチン接種、発熱外来設置、在宅療養者の見守り等に尽力されており、政策医療への英断、地域への多大な貢献に対し高く評価するものである。

5 今後の展望

医療を取り巻く環境が大きく変化し、医師の働き方改革への対応が喫緊の課題となるなか、令和 4 年度以降も「長浜市病院事業中期経営計画 2022－2025」を公立病院改革ガイドラインが策定を求める新改革プランとして策定されたところであり、引き続き改革プランの推進に努められたい。

また、湖北圏域では地域医療構想の議論が再開しつつあり、今後の動向に注視する必要があるが、両病院の特性を十分に発揮しながら、湖北地域の基幹的な病院として、地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供されることを期待する。